

My Favorite in Harp's song

ハープ 私の1曲

第12回 ハープ奏者 / 講師
中山 京 『ダマーズ: シシリエンヌ・ヴァリエ』

ハープを始めるきっかけは、十人十色だ。演奏に接した際、まるで雷にうたれて、その音色の信奉者になる向きもあるし、気付いたらハープがすでに周囲にあって、特に気負うことなく演奏していたという例もある。中山京は、後者だ。お母様が銀座十字屋の会員であり、その流れでハープが自宅にあった。こうした環境を羨ましいと感じる方もいるだろうが、それはお門違いというものだ。伝統芸能の継承にも顕著のように、ハープでもいくら上達のための環境が事前に揃っていても、本人の努力や向上心がなければ、誰であってもマスターできないし、何よりも音楽を好きでなければ続かない。ご本人が「私は、受け身だったから」と謙遜する以上に、感心したのがオンラインで開催されている銀座十字屋ランチタイム・コンサートでの演奏だった。

「タイタニックのテーマ」「ナイチンゲール」「古代様式の主題による変奏曲」と続くレパートリーは、時代やスタイルがまるで異なる曲なのに、全て彼女の声として届けられており、通り一遍に演奏を流す感じではなく、独特な間合いが妙な説得力を醸し出していた。伝えようという意思が明確というか、ハープの楽曲の良さを風説に捉われることなく、「こんな曲もあるのよ」と云われている感じ。最後のサルツェードの変奏曲などは、個人的にも好きな曲だが、中盤から後半にかけての怒涛の如くめくるめく(?) パッセージや、ハイポジションでの弦さばき、ハーモニクスの表現など、正直ハラハラするので普段は敬遠している曲だ。だが当たり前のように心へ入ってくる、この浸透圧の高さ。選曲のセンスから分かる音楽好き。「おや??」と耳をそばだてた者のみが見られる法悦。積極的にグイグイ来なくても、見つけましたよ。



そんな中山に「私の1曲」を尋ねたら、ダマーズの「シシリエンヌ・ヴァリエ」を挙げた。何でも、自称受け身の彼女が、自ら「この曲を弾きたい」と思った初めての曲なのだという。近代フランスは、ハープのベル・エポックでもあり、ハーピストにもこの時代の愛好者が多いが、ダマーズということではついにニヤニヤしてしまう。彼は当時の前衛的な気風とは一線を画し、どちらかといえば新古典主義を標榜した人。シャレオツで独特な、輝くような和音は、時代の空気を巧みに取り込みながらも、マイペースで独自の音世界を作ってきたダマーズ独特なもの。聴いていても、温かで幸せな気分になれる。その良さは、未だ万人の知るどころとは言い難い。ハープで弾こうとしたら、ペダルはさぞ難しいだろうなあ。音数だけ揃えても、ダマーズっぽく弾くのは至難の業と思われる。たぶん、内省的ではあっても、彼女はこうした音のエッセンスや断片を丁寧に拾い上げて、心静かにアーカイヴしてきたのだろう。いまその一部が、発散され始めている。今後彼女がどんどん自ら発信してゆくことになれば、きっと皆の耳にもすぐ届くと思う。ダマーズも、中山も。

HARP LIFE

08

2021

Vol.18
Eighteenth
ISSUE

ハープと皆様を繋げる
オンリー・ハープなフリーペーパー

ハープの日 演奏曲 「Summer」 楽譜

独占連載 夢はハープと共に
井上久美子
ライフストーリー④

季節のおすすめハープ
Vol.18
Chris Harp



Topic 「ハープの日」 イベント再チェック!

そもそも「ハープの日」って何なの?という方もいらっしゃるでしょう。毎年、8月2日がハープの日なのですが、その日に制定されたのは、「ハー(8)プ(2)」と読む語呂合わせからでした。ハープという楽器をより多くの人に理解してもらい、その魅力を知ってもらいたいとの願いが込められ、2019年(平成31年)に一般社団法人・日本記念日協会により正式に認定・登録された、列記とした記念日なのです。以降、全国の各団体が趣向を凝らしたイベントを開催したり、記念行事を企画したりして今日に至ります。

ご多聞に漏れず、銀座十字屋も率先してイベントを展開してきましたが、今年はお笑いコンビ「ザ・ギース」の高佐一慈(たかさくにやす)が、久石譲作曲「Summer」をハープで演奏するというテーマとなり

ました。異色の取り合わせであり、意外な企画に注目も集まりました。高佐さんは、ハープのプロではありません。以前から自己流である程度ハープを弾いていたことは噂になっていました。しかし、久石譲さんの楽曲の演奏を、オンラインとはいえライブで全国配信というステージは、正直プロでもハードルが高いです。そこに挑戦するという高佐さんの心意気、お笑いではついぞ見なかったキリっとした表情に、銀座十字屋講師もコーチを買って出たわけですが。本誌も、特訓の模様を追った高佐日記というコーナーを連載してきました。

本誌が街に出る頃、ハープの日は過ぎていきます。しかし、銀座十字屋のホームページ(QRコード)で、当日の様子がアーカイヴ視聴できるということなので、見逃した方、またもう一度観たいという方も、ぜひチェックしましょう。ご本人がサプライズを用意しているほか、これからハープを弾いてみたいという方は、大いに勇気をもらえそうです。そして、高佐さんのハープ愛が本物であったことも確認できるでしょう。



独占
連載手記

夢は ハープと共に

井上久美子ライフストーリー



KUMIKO INOUE 第4章 オランダ留学生活② A life filled with harps

国際ハープウィーク での宝もの

オランダ留学中、なんと言っても最高のハイライトは、毎年7月に開催される「国際ハープウィーク」でした。その一週間、名前だけ知っていた有名なハーピストや作曲家が世界中から集まります。その方々が演奏したり、生徒たちがベルクハウト先生や著名なハーピストたちの前で演奏して批評を受けたりと、私にとってはびっくりを通り越した衝撃的な一週間でした。いらっしゃるハープの先生も素晴らしい方々ばかりで、ロシアからはマダム・ドゥーロヴァ、そしてドゥーロヴァ先生のお師匠さんで帝政ロシア時代の伯爵夫人で革命のためにイギリスに亡命したマリア・コルチンスカ先生、アメリカからはスーザン・マクドナルド先生などなど。

ベルクハウト先生とコルチンスカ先生がこのハープウィークのリーダーでした。私も毎年弾かせていただき、世界最高峰の先生方の前で...といっても、前にお話し



▲国際ハープウィークの様子

したように80人ほどしか入れない、美しいけれども小さなホールなので、演奏者と先生方との間は50cmか1mほどしかなく、そこで弾く時には、ものすごく特別な緊張感がありました。そのハープウィークの特徴は、ハーピストだけでなく、たくさんの作曲家もおいでになることで、私もナトラさんやウーディさんの作品を弾いた時に貴重なアドバイスをいただいたりしました。ウーディさんは私の演奏をとても気に入ってくださり、後に「NC77」という曲を私の

ために作曲して下さり、私はそれを1987年のウィーンでのコンGRESSで初演いたしました。お二人には後にいろいろな国際コンクールでお互いに審査員としてお会いしましたが、その時はこんな日が来るとは夢にも思いませんでした。このお二人もこの2月と3月に相次いで亡くなられて、本当に悲しく、寂しい思いをしております。

さらに、このハープウィークで私の宝となったのは、そこで出会った素晴らしい同世代のハーピストの仲間、友達です。彼等の演奏を聴いて大きな衝撃を受けたり、

感動したり、世の中にはこんなにたくさんの素晴らしいハーピストがいるのだと痛感いたしました。日本という国のなかにはいるだけでは「井の中の蛙大海を知らず」だったと、ハープの世界の広さを知りました。本当にたくさんの生涯忘れえぬ出会いをこのクイークホーヴェンでいたしました。

この国際ハープウィークで、思い出深い出来事がもうひとつあります。私がそこでリサイタルをすることが決まっていたとき、青山ハープさんから「ちょうど新しいハープの試作品ができたので、それで弾いてほしい」とモルナール先生を通してご依頼がありました。私はそれまでライオンヒーリーかサルヴィしか知らなかったもので、どんな楽器か全くわからず、不安も大きく、ベルクハウト先生にご相談しました。先生は、「あなたが日本のハープをここで世界中からやって来るハーピストたちに紹介するのはすごく大切なことです。初めてだからと躊躇してはだめ、勇気をもって挑戦したら?」と。先生の一言でその年のリサイタルを青山ハープで弾き、結果は自分でも思ってもいなかったような成功でした。今でも青山社長、そしてベルクハウト先生に感謝しています。



▲ロシアを亡命したマリア・コルチンスカ先生(左)とベルクハウト先生



▲作曲家ウーディさんと(1987)。ウーディさん作曲を初演した



▲作曲家ナトラさんと井上久美子

国際ハープウィークから World Harp Congressへ

ベルクハウト先生が主催されていた国際ハープウィークが1978年を最後に、先生が高齢でご負担が大変なために終了することになりました。でも、ハーピストにとってこのような素晴らしい企画は唯一無二、そのころ世界中探しても他になかったもので、何とか継続したいというたくさんのハーピストたちの強い希望があり、スーザン・マクドナルド、アン・ストックトン、マリオ・ファルカオ、そして私など数人が創立者となって、今のWorld Harp Congressを催すことになりました。それ以来2013年まで、私は33年間、副会長として一生懸命にやってきました。現在は井上美江子さんが副会長、大竹香織さんが役員、斎藤葉さんがコレスポデンスとして大事なお仕事をしてくださっています。今やWorld Harp Congressは、世界中のハーピストを結ぶ大きな輪の中心となっています。(次号に続く)

●筆者略歴：東京藝術大学大学院在学中にオランダ政府の奨学金を得て留学。以後、世界各国で演奏、コンクールの審査員、指導を行う。現在、世界ハープ協会コーポレーション・メンバー、武蔵野音楽大学特任教授、日本ハープ協会副会長。



▲恩師ベルクハウト先生との思い出は尽きない



独占公開

ハープの日「Summer」2台ハープ編 監修／邊見美帆子

JASRAC#2104799-101

ハープ1 ♩=90

ハープ2

9

12

15

18

3

22

25

28

31

34

37

40

43

46

49

52

Harp Life CD Collection

ハープライフ選定 ハープ銘盤コレクション

時を超えて、いつまでも残しておきたい、
ハープの銘盤CDをご紹介してゆく
コーナーです。



Harp Life
GOLD DISC
第8回

「斎藤葉／ 泉～ハープ小品集」

音楽好きになるか、ならないかの鍵は、実はパイセンたちが握っている。世話好きで、自分の感性がいかにイケてるかを認めさせたい人種で、執拗に名盤を勧めてくるのである。先達の言葉だけに無下に断れないし、数日経ったら「あれ、聴いた?なければ、貸すよ」と念まで入れてくる。曰くビートルズなら「リボルバー」がいい、ジャズならビル・エヴァンスの「ポートレート・イン・ジャズ」とマイルス・デイヴィスの「カインド・オブ・ブルー」だ、クライバー指揮の「運命」は聴いたか等々。皆、是非モノで勧めてくるので、内容は確かに良い。だが多くは、各界の音楽家たちが積み上げ昇り詰めて手にした境地だけに、実は高度な音楽であり、いくら良いとはいえ初心者には唐突に分かれといっても無理筋な部分もある。彼らの推薦作は、往々にして大きく分けて「孤高無双なパターン」と「羊の皮を被った狼パターン」がある。

もしも自分がハープのパイセンとして、ハープのCDを勧めてくれと問われたら、この「泉～ハープ小品集」を推すだろう。本作は、前出のパターンでいえば、明らかに後者だ。世間が「これぞハープの音色」と呼ぶであろう、優しく大らかで、SK-II並みの保湿+浸透力のある演奏。掴みはOKである。選曲だって、ドビュッシーの「アラベスク第1番」から、トゥルニエの「朝に」、アッセルマンの「泉」など、耳心地のよい、いわゆるハープにおける名曲、あるいはコンクール課題曲のオンパレードだ。ハープ入門者予備軍たちの喜びの表情が目浮かぶ。「私も葉さんのようなハープが弾きたいわ!」…ところが、あーた。カプレの「ディヴェルティメント」の技巧、フォーレの「即興曲」の味わい、聴き分けられましたか?確かに小曲集であり、名手たちが残した練習曲の類

を収録しているCDなのだけれども、いざ別の演奏者が弾いたバージョンを聴いたり、自分でハープを掻き鳴らしたりしてみても、たぶんあなたは気付くのである。「あれ、葉さんのとは違うなあ」と。つまり、ハープは爪弾くだけでも相応の美しさで鳴ってくれるし、その音色はうっとりする美しさを秘めている。だが個性と技術をもってそれらを表現することと、端的に譜面通りに演奏することとは、天と地ほどの力量の差が出てしまう。ハープの個性と魅力、そして厳しさがこれほど凝縮されたCDは、そう多くない。初心者が「ハープの奏でる音楽って、どんなものなのだろう」という問いに対して明快な答えがここにあるからこそ、パイセンとしてはお節介ながら推薦する。一方でかく云う自分がそうであるように、数年後に本作を再聴して、全編に溢れる透明感と緻密さに、今さらながら舌を巻き、昨年「ラ・カンパネラ」のソロ演奏でさらなる霊峰を目指した斎藤葉が、本作発表時よりも数段高い演奏力に達していることで、その後ずっと彼女を追っかける羽目になる…そんな作品であることは、ここで予め忠告しておこう。

お買い
求めは、
こちらから!



季節の おすすめハープ

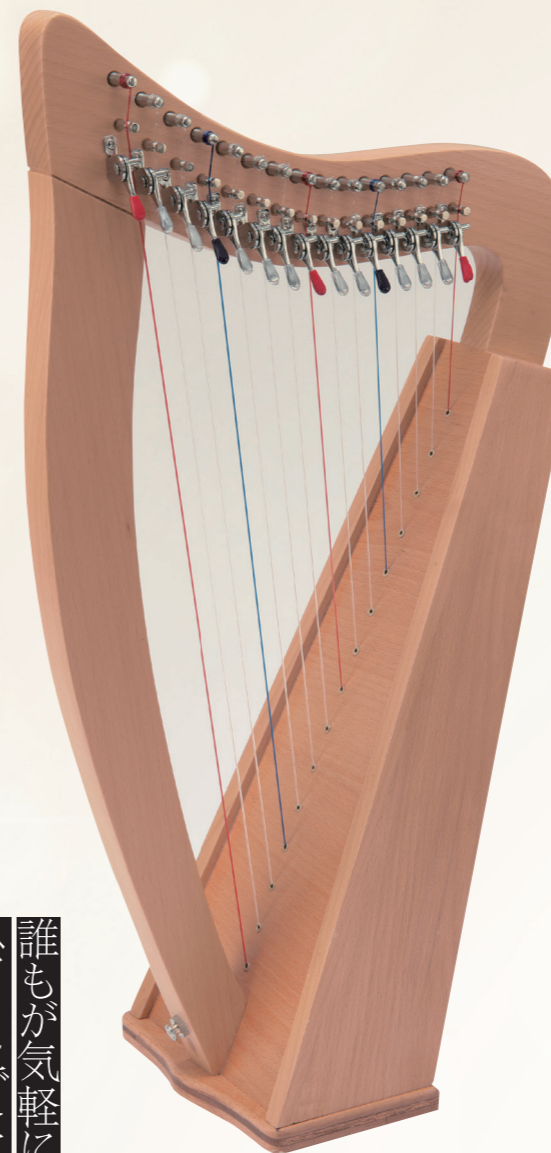
季節ごとに、毎号1台ずつ
銀座十字屋がおすすめする、
素敵なハープ。
今回は、「クリスハープ」です。

Vol.18

今回は夏にマスターするにはもってこいの、銀座十字屋が独自に開発・製作した小型ハープ「クリスハープ」をご紹介します。

昨年来、「誰もが気軽にスタートできる小型のハープ」というテーマで、銀座十字屋がひそかに開発してきたこのハープは、現場のプロフェッショナルやユーザーの皆様の声を集めて、試作を繰り返し、今年に入ってプロタイプが出来上がり、今度は十分な弾き込みを経て、この度ようやくシーンへデビューすることになりました。

このハープの一番の魅力は、何といたっても手にしたその日からちょっとした曲の演奏やヒーリング・ハープを体験できてしまうこと。音域は、2オクターブCから4オクターブCまでで半音装置付き。全長が64cm、最大幅36cm、重さ3kgという膝の上に載せられる小型のハープは、さながら浜辺で小脇に抱え奏でるウクレレのような感覚で、いつでもどこへでもハープを持ち込めるポータビリティは、何にも代えがたい特長でしょう。付属品として、ストラップ、クロス、チューニングハンマー、ブリッジピン調整用六角レンチ、スペア弦、そしてソフトケースまで付いてきます。まさにハープの入門機としても重宝するだけではなく、もちろん15弦ハープなので、複雑な演奏は無理ですが、すぐに癒しの音を奏でられる本格仕様のハープなのです。カラー・バリエーションは、パッションホワイト、ファンタジーブルー、ウッディーの3色です。いきなりベダルハープはちょっと…という方、とりあえずはハープってどのようなものかを知りたいという方。憧れのハープ生活が、今日からお気軽に始めることができます。自分自身を含め、まずは身近な存在をハープの音色で、癒すことから始めてみませんか。



誰もが気軽に
スタートできる
小型のハープ。



Chris Harp

クリスハープ